



団体追い抜き圧勝

復帰の押切帆
高木菜那、美帆

出し切った

高木菜那 (追い抜きのメンバー) それぞれが出したいいタイムになつた。改善点はたくさんあり、もつとタイムは伸ばせる。

スピードスケートのワールドカップ女子団体追い抜きで優勝し、表彰台で笑顔を見せる(左から)押切美帆、高木菜那、高木美帆。3日、アスター(EPA)(時事)

タイムは納得

押切美沙紀 今季初のパシュー(団体追い抜き)で交代があまりうまくいかなかつた。タイムとしては納得。

△男子も初Vの快挙

▽△男子団体追い抜きで表彰台を目指していた日本が、一気に最上段に上つた。強豪オランダが主力を欠いていたとはいえ、W杯で初の快挙。ウイリアムソンは「かなり大きな自信になつた」と声を弾ませた。

中盤までの通過タイムはトッップではなくたが、終盤の粘りで順位をぐいと押し上げた。中長距離の日本男子は個人種目でも、世界トップレベルとの差が縮まつてゐる。3人の平均年齢は22歳と若く、伸びしろは十分。中村は「今後も表彰台にすこしと上がつていけるようにしたい」と闘志をみなぎらせた。

(2位以下関係分、Bクラス)

【男子】

△500m△Aクラス①ダイダイ・スター(オランダ)
34秒52⑥長谷川翼(日本電産サンキヨー)一日大、白樺学園高出
34秒78△Bクラス②羽賀亮平(日本電産サンキヨー)一日大、白樺学園高出
35秒20③中村駿佑(EH)35秒22④村上右磨(村上電気)35秒24



美帆1000好機逃さず頂点

W杯スケートアスター大会

【アスター(カザフスタン)】スピードスケートのワールドカップ(W杯)アスター大会第2日は3日、カザフスタンのアスターで行われた。女子1000mで高木美帆(日体大→帯南商)が1分5秒25で初優勝を果たした。郷里砂(イヨテツー山梨学院大、白樺学園高出)は5位、神谷衣理那(高堂建設)は10位、辻麻希(開西病院)は12位。高木美帆は3位に入っ

た前日の3000mに続き同団体追い抜きは日本(高木美帆、押切美沙紀)が初優勝を果たした。郷里砂(イヨテツー山梨学院大、白樺学園高出)は5位、神谷衣理那(高堂建設)は10位、辻麻希(開西病院)は12位。高木美帆は3位に入っ

た前日の3000mに続き同団体追い抜きは日本(高木美帆、押切美沙紀)が初優勝を果たした。郷里砂(イヨテツー山梨学院大、白樺学園高出)は5位、神谷衣理那(高堂建設)は10位、辻麻希(開西病院)は12位。高木美帆は3位に入っ

メンタルの成長支えに

ゴール直後、電光掲示板に目を向けた高木美帆は両腕を高く突き上げた。女子1000mを制し、念願の個人種目初優勝。「素直にうれしくて、喜ぶどころかなと思った」。

前日に3000mで3位の表彰台に上がつた勢いを加速させ、頂点へと駆け上り、表彰台のワールドカップ女子1000mで優勝した高木美帆(3日、アスター(EPA)(時事))

最初の200mを短距離専門の選手に近いタイムで入った。力みのないフォームでスピードを維持。その後の2周でラップを大きく落とすことなく滑り切つた。3位になった11月のW杯長野大会で、自分より上にいたベルフスマ(米国)、小平奈緒(相沢病院)が不在のレース。優勝の絶好機をと自覺した分、重圧がかかっていた。しかし今季の高

本美には「メンタルが強くなつて安定してきた」との実感がある。話していく通りに実力を発揮した。中学生で2010年バンクーバー五輪代表に選ばれ、6年が経過。22歳でW杯勝利の目標を達成し、女子団体追い抜きでも主力として日本チームを今季初勝利に導いた。

18年平昌五輪のプレシーズン。万能型の選手として、力強く成長曲線を描いていく。

(中村選太)ロジネツツジヤパン、土屋良輔(専大)、ウイリアムソン師円(日本電産サンキヨー)が初制覇。2位のカナダと0秒85差など、1秒差に4チームが入り接戦を制した。男子500mは、長谷川翼(日本電産サンキヨー)→日大、白樺学園高出)が自己ベストに0秒1迫る34秒78の好タイムで個人種目過去最高の6位と初入賞した。同1000mは小田卓朗(開発計画研究所)が3位で初の表彰台に立つた。

ワールドカップの十勝勢女子の主な成績では、島崎京子さん(白樺学園高出)が500mで通算7勝を挙げ、1990→91年シーズ

ンに日本女子初の種目別総合優勝。大菅小百合さん(同)も500mで2回の

優勝などを遂げている。